



【おうち英語】フォニックスへの誤解

わが家の子どもは英語の読みに関しては両極端な反応を見せて育ちました。

上の娘は読みに関しては日本語も英語も早熟なタイプで、
同世代の子と比べてもかなり早くに読めるようになりました。

私が何か意図的に早く読めるようにしようと働きかけたのではなく、
自然にそう育ちました。

上の子を子育ての基準にしてしまうところがあり、

息子が抱える読み書き困難に気付くまでの私は
「子どもは読み聞かせとかしていれば自然に読めるようになるんだ」
と思っているところがありました。

そのためフォニックスの学習にも無頓着で、
「みんながフォニックス、フォニックスと言うからちょっと買ってやらせてみるか」
ぐらいの熱量でした。

私自身、大学で英語を専攻しましたが、
フォニックスを本格的に学んだ経験はそれまで皆無で、
フォニックスのことを「なんか小難しい音のルールだよな」
ぐらいに思っていたという(恥)

そんな私のフォニックスへの貧しい認識が一変したのは、
息子が小5の時に英単語の一つも読めないことが発覚した時です。

そこで初めてトレーニングに参加して
フォニックスというものを基礎から学びました。

本当に衝撃的でした。

息子にフォニックスのレッスンを施すことで、
あんなに読めなかった息子が短期間で
英語を読めるようになったことも驚きでしたが、

自分自身なぜこれまでフォニックスを学ぶ機会を持たず、
苦勞して英単語を読み書きしてきたのか・・・
ということに愕然としてしまいました。

随分要らぬ難行苦行をしてきたものだ・・・。

この経験から、
息子のように英語の読み書きに苦勞しているお子さんがいるなら
フォニックスを教えて差し上げられないか、
自分自身が味わった無駄な苦勞を
英語の読み書きでする子を減らしたいと思い、
私にしては思い切ったチャレンジではありましたが、
オンラインで Jolly Phonics のレッスンを提供し始め、
今も少しでもお役に立てるように頑張っているところです。

このような形でフォニックスというものに対する意識が大きく大きく変わり、
フォニックスのことを日頃から深く考えるようになったわけですが、
フォニックスが一部の方に誤解されているところがあるのではないかと
も感じるようになってきました。

その誤解とは、フォニックスのことを
【英語を早い時期に読めるようにするための手段】
と捉えておられる方がいらっしゃるのではないかと、ということです。

フォニックスを子どもに学ばせたい理由が
「早く自力読みできるようになってほしいから」と、
早期の自力読みを切望されることを動機にされる方がたまにいらっしゃいます。

確かに、子どもが自分で英語を読めるようになってくると、
おうち英語の選択肢はグッと広がります。多読も楽になりますし、
ワークブックもできる、そして英検受検というのも可能になってきます。

わが家の子どもたちほど極端でなくとも、
英語を自力読みし始める時期は子どもそれぞれでかなり個人差があります。

SNSなどでわが子と同じ年ごろのお子さんが英語を読めていると知ると、
焦る気持ちも手伝って、

「とにかく早く読めるようになってほしい」



「読ませるためにはフォニックスを習えばいいんだよね」
という流れになってしまっている場合もあるように危惧しています。

Jolly Phonics は多感覚でフォニックスを学んでいくことができるため、
比較的低年齢の子でもフォニックスを身に付けやすいと思っています。

そのため、フォニックスの習得自体が小さな子供に無理なことだとは言いませんし、
個人差があるところを一律に年齢だけを基準とするのはナンセンスだと思っていますので、
低年齢のお子さんのフォニックス学習を頭ごなしに否定もしませんし拒否もしません。

しかし、【フォニックスを読むための道具】と思って、
子どもの意思と時期を無視して子どもにフォニックスを覚えこませても、
次なる壁に必ずぶち当たります。

それは、【「読める」と「読みたい」は違う】ということです。

子どもの読みたいという気持ちが育っていないことを無視して
道具(フォニックス)だけを与えても、
子どもが自ら進んで読み始めるということはないでしょう。

フォニックスは確かに読み書きを楽にしてくれるツールです。

音のスペルのルールを身に付ければ、
未知の単語も読めてしまいます。

しかし、当然のことながら読めるからといって
意味も理解できるようになるわけではありません。

子ども自ら読もうという気持ちなしに、
無理やり音を拾って読ませても、そこから得られるものはそれほどないと思っています。

私自身、

おうち英語は早期英語教育とは一線を画すものだと思っていますが、もし子どもの発達段階以上のことを強いるようになってしまえばそれはおうち英語ではなくなってしまうと思っています。

幼児期には「他の子と比べて早いことが良い・優秀」という謎の判断基準があつたりしますが、子どもの発達段階やレディネスを考慮せずにツールを与えてもそれは良い結果に繋がらないのではないのでしょうか。。

私が思うフォニックスの一番の始め時は、子どもが読み書きに興味を示し始めたときだと思います。

読みたい・書きたいという気持ちが出たときに、読み書きの道具を渡してあげると、子どもはその道具を工夫して使うようになります。

知識を吸収する力、使いこなそうとする意欲が全く違います。

わが家の息子が半年で Jolly Phonics をマスターできたのも、息子本人に危機感に似たものだったかもしれませんが、息子自身に強く「読めるようになりたい」という気持ちがあったからだと思います。

現在、読み書きの苦手を克服し、フォニックスという道具を学校英語に上手く対応する手段として使っている息子を見ていると、フォニックスは学習する機会が持てるのであれば是非学習すべき、そしてフォニックスは英語の読み書きで苦勞することを減らすことを可能にするのだと思わされます。

フォニックスは決して「早く読ませることだけを目的とした」ツールではないのです。

必要な時に学んでこそ強力な英語学習支援ツールとなると私は思っています。

またフォニックスへのもう一つの誤解は、フォニックスを発音のトレーニングと思っておられる場合です。

フォニックスは音とスペルのルールを学習しますので、
正しい音を身に付けることができます。

それまで曖昧だった発音を矯正する機会になる場合もありますが、
発音の矯正や発音トレーニングが主目的ではありません。

フォニックスは「英語の読み書きのつまずきをなくすこと」・
「単語学習の負担を減らすこと」が主目的とされるものなのですが、
おまけとも言える部分の発音に焦点を当てすぎて、
「正しく美しく発音をさせなければならない」と発音にこだわりすぎるのも
私はいかがなものかと思います。

Jolly Phonics には
アメリカ版とイギリス版で発音が違う音がいくつかありますし、
また日本の実情に合わせて、
アメリカ版でもイギリス版でもない音の分類が
日本版にはあったりします。

そのように発音というものは地域によっても変わります。
フォニックス本来の主旨と違うところにこだわって
フォニックスの学習が進まないのは本末転倒なのではないかと私は考えております。

今日は私が感じているフォニックスに対して
持たれていると感じる誤解を書いてみました。

適切な時期に正しく学ぶフォニックスは英語学習に非常に有益なものです。

息子が英単語が1語も読めないと知ったときの絶望の淵から
私たち親子を救ってくれたフォニックス (Jolly Phonics) を正しく伝え、
必要としてくださる方に適切なフォニックス学習の支援ができるように、
これからも地道に頑張っていきたいと思っております♪ご参考になれば(^_^)